

2. 調査

2.1 調査概要

市房ダムの洪水吐堤体導流壁に剥離が生じていることが、平成 12 年夏に確認された。このため、平成 13 年度に足場を設置して現地調査が実施された。剥離状況を写真 2.1～3 に示す。

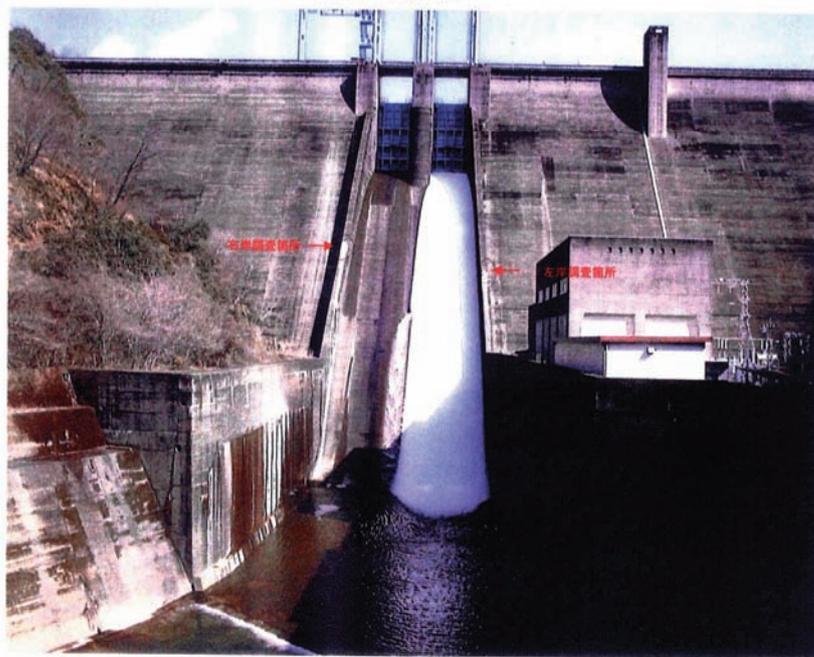


写真 2.1 剥離箇所



写真 2.2 右岸側導流壁剥離状況

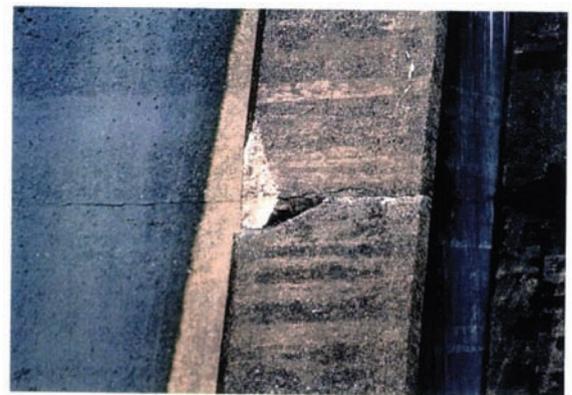


写真 2.3 左岸側導流壁剥離状況

2.2 調査内容

調査内容は以下のとおりである。

- ① 目視観察
- ② コア採取、コア観察
- ③ コア圧縮試験

2.3 調査結果

(1)目視観察

右岸導流壁剥離部のスケッチを図 2.1 に、詳細写真を写真 2.4 に示す。左岸導流壁剥離部について同様に図 2.2、写真 2.5 に示す。

【右岸導流壁剥離】

剥離部の寸法は概ね、高さ 30×幅 50×深さ 10cm である。剥離の底辺を形成する水平打継目は、約 2mm 程度の開きを生じている。剥離箇所より奥側に垂直方向の古いクラックが認められる。

【左岸導流壁剥離】

剥離部の寸法は概ね、高さ 100×幅 20×深さ 10cm である。縦継目が剥離部の下流側の面を形成している。この縦継ぎ目より下流側の小さな剥離はより古い時のものである。